

詩編 42 篇の瞑想。

森 千恵美

Psa42:2

私のたましいは、神を、生ける神を求めて渴いています。
いつ、私は行って、神の御前に出ましようか。

צְמָאָה נַפְשִׁי לְאֱלֹהִים לְאֵל הַיְיָ מִתִּי אָבוֹא וְאֶרְאֶה פְּנֵי אֱלֹהִים:

★ツァームアー ナフシー レエローヒーム レエール ハイ マータイ アーヴォー
ヴェエーラーエ ペネー エローヒーム:

~~~~~

今回の瞑想は、42 篇 2 節より、『渴く』という語彙を調べてみました。

「渴く」= 『צָמָאָה』 ツァーメーという QAL 形の動詞で、2 節は

『צָמָאָה』 ツァームアー ⇒ 完了形、3 人称単数、女性形と変化しています。

この語彙を選んだ理由は、読み始めてすぐ目に留まりました。  
この 2 節は、今の自分自身のようだ、と思ったからです。

この一年は、聖書の学びと、ヘブル語の学びがほぼ生活を占めていた、と言えるほど集中し、ひたすら御言葉を求めていました。  
常に飢え渴き、主の言われること、ご命令、ご計画を知りたいという思いでいっぱい的一年間でした。

そして今もそうですし、今後もさらに慕い求めていきたい、という気持ちでいます。  
まさに、「私のたましいは、神を、生ける神を求めて渴いて」いるのです。  
これは私自身というより、私の内におられる御霊によるものだと確信しています。

まずは、詩篇とは、どういう書なのか、を説明したいと思います。  
詩篇は旧約聖書の預言を詩的にまとめたもので、  
一部、神殿の礼拝における賛美のために作られた、ともいわれています。

その時代背景や分脈などまだしっかり学んでおらず、分からないのが正直なところです。

42.43 編を調べて分かったことは…

\*マスキール…13 の詩篇の表題として出てきます。

意味は不明、とありますが、このあと少し説明させていただきます。

そして『教訓詩』という説もあります。

\*42~43 篇は、元々一つの詩であったと思われれます。

\*神への渴望をうたった詩です。

\*43 篇は 42 篇の続きで、神の導きを求める詩です。

\*そして、42:5, 11, 43:5 は、反復句といい、同じ言葉を繰り返しています。

~~~~~

先程マスキールは意味不明といいましたが、単語を辞典で調べてみました。

『מִשְׁכִּיל』 = マスキールは 『שָׁרַח』 = サーハルという QAL 形のヒフィル態、

「悟らせる、悟る、賢くする、思慮がある、栄える」などの意味があり、マスキールは、分詞、単数、男性形です。

*ここで更に、QAL 形とかヒフィルとは何か？という疑問が出ると思われますが、動詞は動作や状態を表しますが、その行為をどの視点で見るかを区別することを『態』と言い、ヘブル語の「態」は「7種類」あります。

この「7」という完全数が、神様の御旨を思わされました。

その7つの内のひとつがヒフィル態で、使役動詞（～させる）という、

「能動」…行為を行う視点「～する、～させる」を表す時に使われるようです。

そして…

「マスキール」の意味は「**教訓**」で、

神を賛美する者たちを指導し、指揮する意味がある。との説もありました。

ここでは後者の『**教訓**』という意味でしょうか。

何故ならば、詩篇は、神殿の礼拝における賛美のために作られたものですが、賛美を導く人々に「コラの子たち」がいました。

レビ族のケハテ氏族の一人、コラの子孫です。(民数記 16 章参照)

コラというと、アロンとモーセに反逆し、
生きたまま地の中、陰府に落とされた人です。

神のあわれみによって、その子孫で残された者たちがいました。
そして、ダビデの時代には、礼拝賛美を導く奉仕者になりました。
42編を読んでいて、コラの子孫が、先祖から学んだ「教訓」とは、
神を崇め、求め、従う心だったのだと思います。

4節に…

昼も夜も、わたしの糧は涙ばかり。人は絶え間なく言う
「お前の神はどこにいる」と。

モーセたちに反逆したコラの、神からの裁きは厳しいものでした。

そこから導き出るものも、このツァームアー「渴く」に繋がるのかもしれませんが。

そして本題の『תַּשְׁמַחַת』ツァームアー＝渴くについてですが、まだ詳細がつかめておらず、
この発表のあとにも学びたいと思っています。

文法的には、先ほど書いた通りです。

そして、他の箇所でもどこに使われているのか、見てみますと、

詩篇 63:1

神よ。あなたは私の神。私はあなたを切に求めます。
水のない、砂漠の衰え果てた地で、私のたましいは、あなたに渴き、
私の身も、あなたを慕って気を失うばかりです。

【新共同訳】では…

63:2

神よ、あなたはわたしの神。わたしはあなたを捜し求め
わたしの魂はあなたを渴き求めます。
あなたを待って、わたしのからだは
乾ききった大地のように衰え
水のない地のように渴き果てています。

同じ語彙が使われているのは、ここ一ヶ所だけでした。

「のどが渴く」や「地が渴く」という意味で出てきたのは、10カ所ありました。

私たちの心の飢え渇き、という意味での『תַּשְׁמַח־וַתִּשְׂמַח』 ツァームアー=渴くという箇所はありませんでした。

今の私では、ここまでしか調べられず、自分の飢え渇きについて悔い改める必要があることも思わされました。

この詩篇4 2編、4 3編は「神への渴望を歌った詩」ということが分かりました。私たちも、一人一人が神様への心の渇きを持ち続け、日々『主』に渴望し、希望を持って慕い求め、聖書のみことばに従い続けていく必要があると思います。
(ヤコブ 1 : 22)

その為には神の言葉である、聖書の御言葉を学び、正しく理解すること、そして神様のご計画を知ることなのでしょう。

ヨハネ 1:1~2

初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。この方は、初めに神とともにおられた。

神様は、私たちが「渇き」を覚えることを喜ばれます。

一サム 15:22

「サムエルは言った。
「主が喜ばれるのは、 焼き尽くす献げ物やいけにえであろうか。
むしろ、主の御声に聞き従うことではないか。」

見よ、聞き従うことはいけにえにまさり、
耳を傾けることは雄羊の脂肪にまさる。」

モーセの律法が無効になった今、キリストの律法に聞き従うことが、私たち異邦人信者の信仰であり、『信仰による行い』です。

旧約聖書から新約聖書を学ぶことは、ひとりひとりの飢え渇きから始まると思います。だからこそ、主が喜ばれることは「渇いて」主を求め、御言葉を足の灯とし、日々の信仰生活の糧のために、霊的に成長することなのだと思います。

(へブル 5:13~14)

そのことが、救われて約 5 年目にして理解できたことを、心から主に感謝しています。

【新共同訳】

詩 42:5~6

わたしは魂を注ぎ出し、思い起こす
喜び歌い感謝をささげる声の中を
祭りに集う人の群れと共に進み、神の家に入り、ひれ伏したことを。

なぜうなだれるのか、わたしの魂よ
なぜ呻くのか。

神を待ち望め。

わたしはなお、告白しよう
「御顔こそ、わたしの救い」と。

『**תְּהַלֵּל**』 ツァームアーは、

神様へ近づく一番の近道なのかもしれません。